

令和5年度 第2回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和6年3月8日（金）15時00分～16時45分

場所 阪神南県民センター別館2階大会議室

○委員（出席者13名）

（五十音順）

氏名	役職	備考
東 朋子	NPO法人コミュニティ事業支援ネット理事長	
井上 公宏	尼崎信用金庫営業総括部部長兼地域支援グループ長	
今岡 政彦	尼崎商工会議所総務部長	
上田尾 真	(株)神戸新聞社阪神総局長	
植村 弘	阪神電気鉄道(株)沿線価値創造推進室部長	
岸本 幸三	NPO法人尼崎21世紀の森理事	
北山 耕司	日本製鉄(株)関西製鉄所尼崎総務室長	
木村 晶子	兵庫県阪神南県民センター長	
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館館長	
西村 善明	尼崎鉄工団地協同組合特別顧問	
宗 和弘	アマフォレストの会会長	
山田 隆	日本山村硝子(株)CSR推進室長	
横田 敏治	尼崎市社会福祉協議会理事	

■資料の確認／事務局

【資料】

- 資料1 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況
- 資料2 尼崎21世紀の森構想エリアツアー 開催結果
- 資料3 尼崎21世紀の森づくりSDGsガイドブックの更新について
- 資料4 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況
- 資料5-1 森構想エリア内における環境学習の推進に向けた今年度の取組と今後について
- 資料5-2 森構想エリア内における環境学習に関わるヒアリング結果
- 資料5-3 尼崎21世紀の森構想エリアにおける環境学習のプロジェクト説明資料（案）
- 資料6 令和6年度の取組みについて

【参考資料】

- 参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱
- 参考資料2 令和5年度第1回尼崎21世紀の森づくり協議会議事録
- 参考資料3 尼崎21世紀の森づくりSDGs推進ガイドブック（令和6年3月更新版）
- 参考資料4 尼崎21世紀の森づくり行動計画（令和5年3月改訂版）

■会長による開会の挨拶

SDGsから住民参画まで様々な議論をしてきたが、政府の方でも環境基本計画の中で生物多様性について言及し始めている。これまで、皆さんと先進的な取組をしてきたのだと思っている。自然共生サイトに認定され、ここでの活動が全国的に脚光を浴びるようになってきた。これからも最先端を走り続けていけるように皆さんと議論できればと思うので宜しくお願いしたい。

■報告事項

- (1) 「尼崎21世紀の森構想」今年度の取組状況（資料1）
- (2) 尼崎21世紀の森構想エリアツアー 開催結果（資料2）
- (3) 尼崎21世紀の森づくりSDGsガイドブックの更新について（資料3）
- (4) 尼崎21世紀の森づくり行動計画（改訂版）に基づく取組の進捗状況（資料4）

○資料説明（事務局）

資料1から資料4をもとに事務局より説明。

○意見交換

会長：中央緑地ではメリケントキンソウの状況はどうか。

事務局：大芝生広場を中心に目立つようになってきた。薬剤で抑えるだけでは上手くいかないため、「森のマルシェ」で協力いただける方に参加いただいて退治するプログラムを考えている。

会長：犬の散歩で芝生に入られると大変である。また成果を教えていただきたい。

委員：資料4別紙の2ページ、「カ」の実施状況に記載のサウンディング型市場調査について、1月頃に募集をかけたという資料が届いたが、その後どうなったか。

事務局：1月18日から募集を開始し、2月26日までの期間で申込み受付を行った。複数の事業者から申込みがあり、現在、事業者にサウンディングを実施している。今年度末には事業者サウンディングを終えたいと考えている。

委員：資料4の2ページ、取組状況について、新規31項目の内の具体的な取組み無し9項目と、実施済み（継続・拡充）150項目の内の具体的な取組み無し28項目について事例があれば教えていただきたい。

事務局：具体的な取組み無しについては、中長期的に進めていく計画のものも含んでおり、令和5年度は実施できていないが、これから取り組むものとして記載している。具体例として、参考資料4の行動計画の11ページに新規の取組みとして掲げているリストがある。その中で、例えば、工場敷地等を活用したすき間農園の推進については、関係者等との調整が必要になるため、これから進めていくこととなる。

■協議事項

- (1) 森構想エリア内における環境学習の推進に向けた今年度の取組と今後について

○資料説明（事務局）

資料5-1から資料5-3をもとに事務局より以下の内容について説明。

○意見交換

会長：小学校以上は日本中どこでもやっていると思うが、幼稚園や保育所に対してしっかりと環境学習を実施している点では兵庫県がトップクラスであると思う。国の環境基本計画では、企業が融資を受けやすくするには環境配慮事業があるかどうかということを書き始めている。環境学習・教育は、日本だけではなく、世界で注目を浴びている項目であると思う。

兵庫県環境学習環境教育基本計画の策定から20年程が経過し、見直しの時期に入ってきている。ここでの知見を次の兵庫県の環境学習環境教育基本計画に採用されるような迫力で、環境政策課へ情報提供していただければと思う。

■協議事項

(2) 令和6年度 of 取組みについて

○資料説明（事務局）

資料6をもとに事務局より以下の内容について説明。

○意見交換

委員：大阪・関西万博を見据えたような取組みや、万博に伴うインバウンド旅行者の取り込みを考えたいという取組みかと思う。懸念されることとしてアクセスの問題があると思う。アクセスに対する取組みやお考えがあれば教えていただきたい。

事務局：万博へのアクセスについては、基本的には公共交通機関でアクセスしていただくように考えている中で、尼崎のフェニックス事業用地に会場外駐車場を作り、そこからパーク&バスライド形式で、乗用車で神戸より西に住んでいる人を対象に乗用車を受け入れ、そこからバスで万博会場へ行っていただく、ということが予定されている。その際の車の動線としては、国道43号から五合橋の交差点を曲がるのではなく、阪神高速湾岸線を通っていただくように博覧会協会が検討をされている。

事務局：中央緑地へのアクセスについては、土日はスポーツの森までバスが出ており、平日は朝夕の周辺企業の通勤時間に出ている。昨年開催したなんとキャナルの時には、中央緑地とセンタープールを繋ぐ臨時バスを出すなどで対応した。これ以上の改善となると現時点では妙案は無く難しいが、引き続き取組みの検討をしていきたいと思う。

委員：武庫川の方から自転車で回ると道がたがただと聞いている。仮に自転車を活用するとして、どこか道を1本整備するのも考え方の1つであると思う。

会長：武庫川左岸の道路沿いでは、ゴミ処理のトラックが沢山出入りしている。渡船業者はマイクロバスで送迎されている。その辺りも参考にされたら良いと思う。

委員：企業版森の会議について、森構想エリア内で環境学習に取り組む企業や市民団体等と記載されているが、近隣の他都市から環境学習の先駆的な場所として南部地域に来てもらうことを想定されているのであれば、このエリアだけに関わらず様々な所からご意見をいただいた方が良いと思う。②の環境学習フォーラムでも、エリア外に発信しようと思っても、エリア外の方がここに関わっていないと広報が大変だと感じた。

アクセスの問題については、せっかく環境学習で先駆的なことをしようとしても、学校や園、子育て団体の方が来る手段がないので、来ることができないという問題もある。身近な方々が普通に、環境学習に来られるような取組みを考えていただけたら良いと思う。

事務局：これまでイベントは中央緑地で実施することが多かったが、環境学習フォーラムは尼崎市内ではあるが交通の便の良い場所で開催し、中央緑地での取組みを中央緑地以外の場所でPRすることを考えている。

委員：阪神電車から南側では、蓬川、北堀運河、南堀まで行くまでの間にはほとんど船が通っていない。実現させるのは難しいと思うが、船で南堀まで行くことができれば、中央緑地まで徒歩8分で行くことができる。アトラクションのような感じで船が走っていれば、もっとアクセスしやすくなると思う。誰が乗るのかなど、マーケティングのこともあるが、使っていない運河を放置しておく方が、費用対効果が悪いと思う。

事務局：運河の利活用については、万博のフィールドパビリオンとして認定されている運河クルーズも実施されており、ここ最近注目を浴びている。安全な航行で、尼崎以外の方々に対して、運河があることや、取組みを知っていただく良い機会になると思う。

委員：環境学習の受け手側のニーズ調査で、学校関係者などへのニーズ調査の実施と記載されているが、中央緑地には森や里山の小屋があり、水路があり、生きた授業ができる場所であるので、学校にどんなことができるのかを提案していただきたい。中央緑地外でフォーラムを開催するというお話があったが、今度は森の中央緑地でやっていただきたい。中央緑地にこんな森があるということを地域外の人にも見ていただきたい。

委員：武庫川女子大学では、来年度、環境共生学部が開設される予定である。また、JR尼崎駅の北側には関西国際大学があり、環境問題、ゴミ問題などに取り組んでいるようなので、学校との連携もできれば若い人たちとの繋がりができそうである。

事務局：森の会議には、何人か大学生の方にご参加いただいていたことがあるので、大学との連携を検討していきたい。

委員：森の文化祭でも武庫川女子大学や関西学院大学から出てくださっている。

会長：最近、国立大学が共通テストの点数と推薦で学生を確保しているようである。ここで活躍したという経歴のある高校生が大学に入れる時代になると良い。

先ほどから21世紀の森をどのように案内をするのか、という話が出ているが、来ることができない人の所にはこちらから出かけていき、出かけていく際のコンテンツをどのようなものにするのかについても考えていただけたら効果が高いかと思う。

学校関係者との協議について、学校の先生はカリキュラムとの関係をととても気にしている。小学3年生から中学2年生くらいまでの理科や社会の教科書と、21世紀の森と運河との関わりなどを丁寧に示してあげると、興味を持ってくださる先生がより多くなると思う。

住民参画は既に当然であり、企業参画の森づくりが進んでいるというのが非常に大事である。また、住民参画で地域固有種の種から苗を育てて、生物多様性の森づくりをしているのは、海外でも少ない。その辺りのことを資料6に記載している来年度の取組みのコンテンツの中で、示していけると良いかと思う。そのためには、服部先生に監修していただけたら、世界一になると思う。また、上手く発信すれば海外の人に興味を持っていただけたらと思う。

■その他（各委員の方からのご発言）

委員：弊社では、令和5年度に9月の環境学習フェスティバルと10月の森のフェスタに参加した。中央緑地の行事以外には、尼崎市のサマーセミナーや、西宮の小学校に環境学習の出前授業を行っている。このような取組みを継続していきたいと思っている。受け手側のニーズと弊社の提供できるサービスが一致すれば、人材の不足はあるが、何とか可能な範囲で協力していきたいと考えている。

委員：森構想が発表された当初から森づくりに参加している。毎週日曜日には、鉄工団地ですき間緑化なども行ってきた。森ができるということは蜜源ができるということで、蜂蜜を採集できると思い、ビルの上で養蜂されている所へ見学にも行った。その後、兵庫県の養蜂振興協会などに相談し、鉄工団地に巣箱を設置して養蜂を開始した。第3工区の工事が開始された頃からは、はじまりの森で巣箱を置いている。県立公園に遊びに来た人が蜂に刺されたらどうするのかなどの意見があり、まだ実現していないが、もう2箱ほど巣箱を増やしたいと思っている。

委員：弊社はBtoBが中心の企業であるため、一般の消費者の方に知っていただけないことが悩みであった。昨年ブース出展した環境学習フェスティバルは、CO2の削減やカーボンニュートラルの取組みをPRできる良い機会になった。次年度以降も環境学習に積極的に取り組んでいきたい。また、沢山ある関係協力会社にもPRしていきたい。

21世紀の森構想が発足した当初から参画させていただいており、最初に取り組んだセットバック緑化では、総延長2kmほどの緑の森を作った。今はこれをどのよう

に維持していくのが悩みではあるが、地元会社として尼崎から21世紀森構想をPRしていけるように、我々としてできることに取り組んでいきたいと思う。

委員：大物の駅前、尼崎市小田南公園内で阪神タイガースの2軍球場の整備建設中である。環境省からの支援を受けながら、ゼロカーボンということのを売りにしており、来年の3月に完成予定である。このような活動を通じて、尼崎南部地域の環境に対する取組みのPRに寄与できればと思う。

委員：仕事上、様々な自治体の方とお会いすることがあり、尼崎には森と運河があるという話をすると、もっとPRした方が良いのではないかとのお声をいただくことがある。企業でも取組んでいるが、まだまだPR不足なのかなと思っているので、頑張らないといけないと思う。今日は、環境学習の議論があったが、映画「あまろっく」が上映され、防災というのも学びの観点の1つかと思う。森というのが、学びの拠点となっていくように、森を作ることに様々な価値を加えていくのも我々の使命なのではないかと、個人的に考えている。

委員：中央緑地では、森づくりのほか、環境体験学習にも取り組んでいる。森で木を植えたり、ノコギリで木を切ったりする体験が大事であるという考えから「体験」という文字を入れている。15年前から取組み、実際に子どもたちを招いている。環境体験学習は、主に小学校3年生を対象に行っている。小学校1、2年生では、理科は社会を交ぜた生活科という教科の中で学ぶ。そして、3年生から理科として学び始め、植物の生長や昆虫の体のつくりなど、森に来たら全て揃っているようなことを学習する。学校からも3年生になった時に学ばせたいということまで来てくださるのだと思う。社会では、3年生の3学期に、中央緑地の中にあるかやぶき民家の中で、かまどや洗濯板など、昔の人々の暮らしを学ぶ。常に各学校の先生のニーズを聞き取りながら、プログラムづくりをしている。

一気に良いものではないので、じっくりやっていくというスタンスが必要であるかと思う。23年度は21回実施した。3学期分来てくれる学校もあった。延べ1,300名程度の子ども達に学んでもらうことができた。欲張ってはなかなかできるようなものではないので、色んな方とコミュニケーションをとってやっていければと思う。

委員：森構想の推進に県と協働で取り組んでいただいていること深く感謝申し上げます。昨年、尼崎の森中央緑地が、30by30の自然共生サイトに認定されたこと、尼崎運河は地域でSDGsを体験いただく、万博のフィールドパビリオンのプレミアムプログラムに認定されていること、4月には「あまろっく」の映画が公開されることなど、様々な良いチャンスだと県では考えている。できるだけ沢山の方に地域のことを知っていただき、来て・見て・体験してもらえよう仕掛けを考えていきたいと考えている。皆様と共に取り組んでいきたいので、どうぞよろしくお願いしたい。

委員：2023年はコロナがあけての活動となり、その中で感じた3つのことを提案させていただく。1つ目が「21世紀の森の日」の制定である。100年の構想と言われている

るが、まだ80年弱残っている。これまでの20年でもSDGsや30by30などの動きがあり、森構想ミッションが薄れていないか。20年前は100年で壊した環境を100年で取り戻すというコピーをよく言われていた。このような森構想の方向性を再確認するための日を提案する。意見を議論し合うサミットや、自然災害伝承碑のように毎年墨入れの行事を行うなど、受け継ぐような日にできればと思う。

2つ目は、人材育成。海外の国立公園では、小学生から中学1、2年生のジュニアレンジャーというものがあり、ナイフを使えるようになるとバッジをゲットできる。また、中高生は、柵や階段を作るなど、土木作業を手伝う団体もある。尼崎21世紀の森でもこのような団体を作ることで、尼崎で活動していた子どもたちが、自分たちが作った階段がまだ残っているかなど、見に来たりするように、戻って来てくれるような活動が必要ではないか。このあたりの年代がこの森ではあまり活躍されていないので、活躍できる機会があれば良い。

3つ目にこれらの活動をするにはお金が必要になるため、尼崎市のふるさと納税を活用した寄付の呼びかけや、尼崎スポーツの森、21世紀の森、尼崎運河の駐車場を有料化して資金調達し、お金をかけて人材育成をしていくことを提案する。

会長：有料ではなく協力金を得るなど、様々な工夫について検討すると良い。

委員：学生支援、中間支援、就労支援、相談支援の4つの柱で活動をしている。令和6年の案について、昔はフォーラムに200、300人簡単に集まっていたが、人口減少でステークホルダーも少なくなっており、多くても100人の時代になっている。人集めは違う形の工夫が必要であると思う。近隣大学や市民活動団体との繋がりもあるので、外から呼び寄せる、繋がる、連携することであれば、我々もお手伝いできると思う。今回、ICTの活用に関する話が無かった。LINEやInstagramで小さなグループを作り、その利用者がどんどん輪を作り拡散していくなど、バーチャルの交流などICTを活用したことが、今の子どもたちに目を向けてもらいやすいのではないかと。

また、協議会では、せっかく様々な会社や団体の委員の方々が集まっていたので、こんなことができますよ、と言えるような会にしていただければ、あるいは事前にこんなこと考えてきて欲しいと言ってもらえれば良いと思う。

委員：21世紀の森では森の文化祭で毎年関わらせていただいている。地域の方への宣伝のために始めたイベントだが、徐々に大庄地区の様々な人を巻き込んだイベントに膨らんでいった。今後も中央緑地を知っていただけるように努力していきたいと思う。

私なりの考えであるが、木があり、苔があり、水があるそんな手つかずの森が私の頭の中にある。田舎育ちで、子どもが遊ぶ対象になるものは木や竹だけであった。100年後の森はこれで良いのではないかと考えている。100年後を期待している。

委員：商工会議所では来年度、小規模・零細企業の皆様にSDGsに取り組んでもらおうと、パンフレットを作って各企業に訪問して説明していこうと考えている。兵庫県や尼崎市でも推進宣伝事業の団体、事業者、パートナーを募集しているので、登録

していただき、SDGsの意味合いを理解していただくという取組みを進めているところである。

委員：委員の方々から、外向けのPRが足りないのではないのかというのは、ひとえに私共の不徳の致すところかと反省している。こちらに来る前は北播の方において、東条川疏水を周知して残していこうという取組みを、北播磨県民局でされており、その委員として5年間ほど関わらせていただいた。環境学習の話があったが、ここにいらっしゃる皆様は100年後にはいない。100年後を想定するのであれば、一番大事なのは引き継いでいくこと。加東市と小野市では疏水学習をしている。良いイベントをしても100年後は無いと思うので、学習というところにも目を向けて長いスパンで続けていただければと思う。

■閉会

以上